

# S/F REAL4



あいホールディングスグループ **DBM**

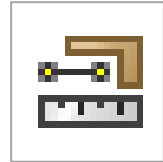
株式会社 **ドットウェル** ビー・エム・エス

**DATA LOGIC**



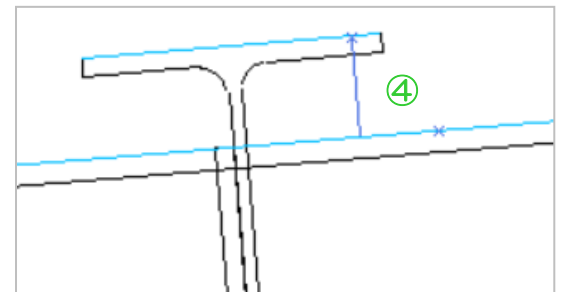
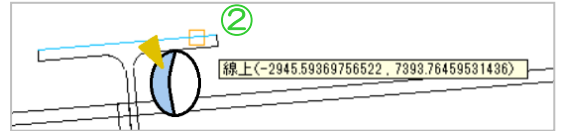
## 計測コマンドの使い方を知りたい！

クリックする位置により計測方法を変更できます



例)【線 - 線 間距離】を計測する場合

- ①【計測コマンド】を起動します。
- ②計測したい線分の上にマウスを合わせて、**□ (線上)**と表示された状態でクリックします。
- ③もう片方の線分も同様にクリックします。
- ④線間距離として計測できます。



計測	2点座標	[-2949.991 , 7393.895 ]	[-2990.048 , 7347.293 ]	クワッドにマ...
	2点間軸距離	40.934 , 46.692	直線距離	64.046
	線角度	184.635463	点線間距離	50 50

例)【点 - 点 間距離】を計測する場合

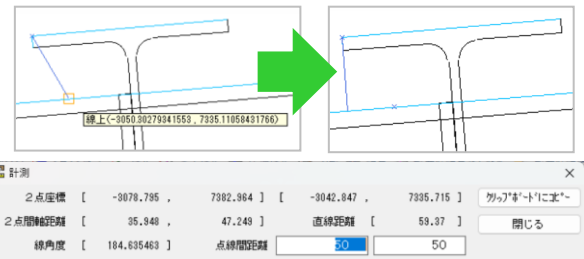
交点にマウスを合わせて、**× (交点)**と表示された状態で2点をクリックすると、点間距離が計測できます。



計測	2点座標	[-3078.795 , 7382.964 ]	[-3089.239 , 7338.927 ]	クワッドにマ...
	2点間軸距離	75.556 , 44.038	角度	928.764207
	直線距離	87.453		

例)【点 - 線 間距離】を計測する場合

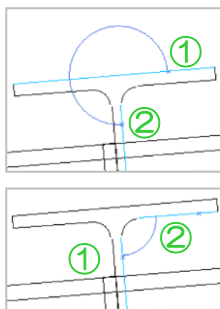
**× (交点)**と**□ (線上)**の状態をクリックすると、点線間距離が計測できます。



計測	2点座標	[-3078.795 , 7382.964 ]	[-3042.847 , 7335.715 ]	クワッドにマ...
	2点間軸距離	35.948 , 47.249	直線距離	59.37
	線角度	184.635463	点線間距離	50 50

例)【角度】を計測する場合

角度が異なる線分を**□ (線上)**にてクリックすると、相対角が計測できます。  
またクリックする順番で外角/内角の切り替えも可能です。



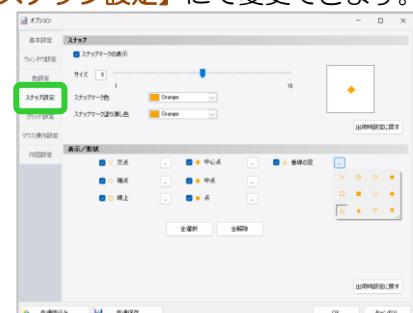
計測	開始線角度	4.635463	終了線角度	274.635463	相対角	270
----	-------	----------	-------	------------	-----	-----



計測	開始線角度	-85.364537	終了線角度	4.635463	相対角	90
----	-------	------------	-------	----------	-----	----



スナップマークの表示サイズや形状は、**【ファイル】 - 【REAL4 のオプション】 - 【スナップ設定】**にて変更できます。



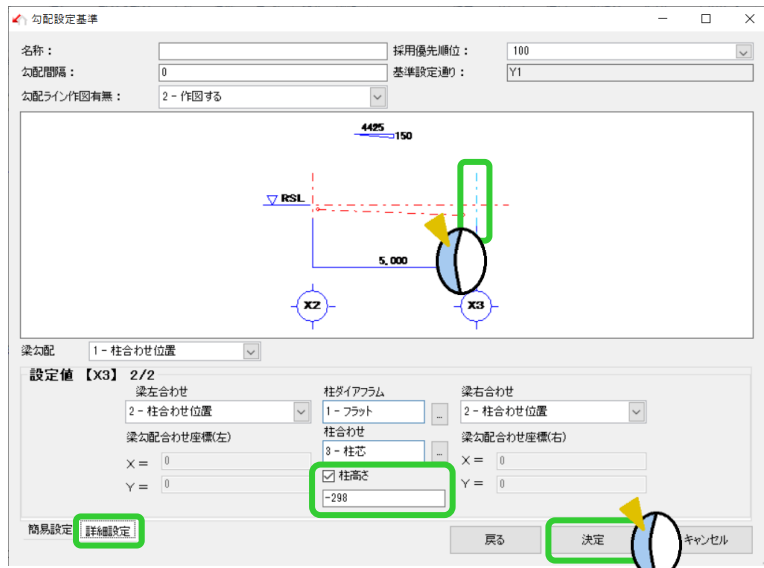


## 勾配設定の詳細設定とは？

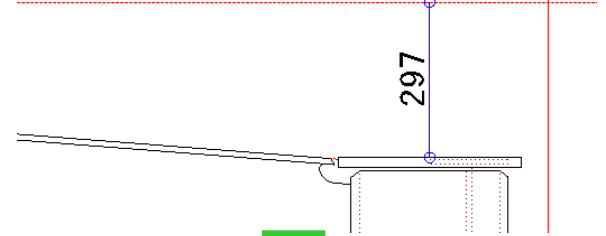
**柱頂部の形状や高さ、梁の合わせ位置などを通り別に設定できます**

例) 勾配で -300 となっている X3 通りの柱高さを勾配とは別に -298 に設定したい。

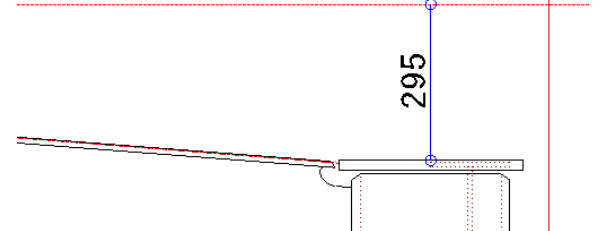
【詳細設定】で X3 通りをクリックし、柱高さに ☒ をいれ、「-298」と入力し【決定】をクリックします。



《詳細設定前》



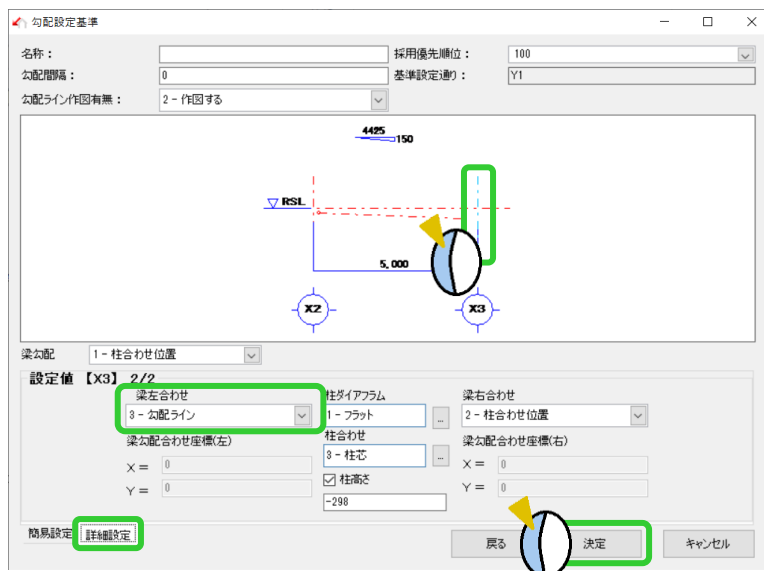
《詳細設定後》



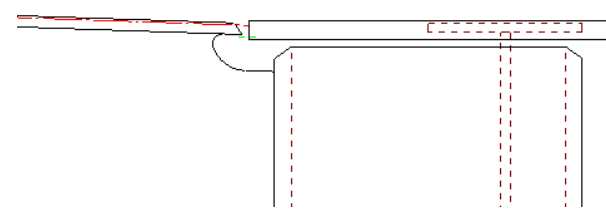
※ダイアフラム高さで寸法表示しています

例) X3 通りの梁の合わせ位置を勾配ラインに合わせたい。

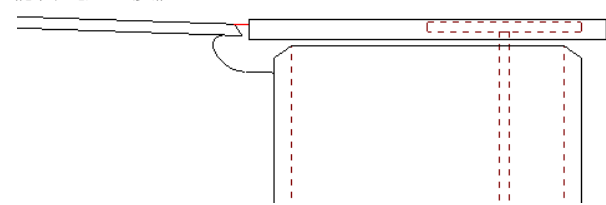
【詳細設定】で X3 通りをクリックし、梁左合わせを「3 - 勾配ライン」に設定し【決定】をクリックします。



《詳細設定前》



《詳細設定後》



### 梁左合わせ・梁右合わせについて

選択した通りの柱の左右それぞれにつく梁を合わせるラインを選択します。

- 1 - 階からの相対座標：座標入力します。
- 2 - 柱合わせ位置：通しダイア縁に合わせます。
- 3 - 勾配ライン：勾配ラインに合わせます。
- 4 - 柱面合わせ：柱部材面に合わせます。



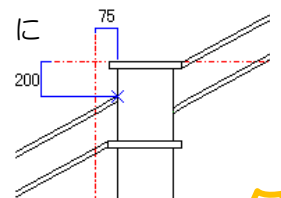
### 梁勾配合わせ座標(左)・(右)について

梁左合わせの設定が「1 - 階からの相対座標」の場合に入力します。階高と通りの交点が座標 (X, Y) = (0, 0) になります。

1 - 階からの相対座標

X = 75

Y = -200





## 梁のスカラップをノンスカラップにしたい！

**パラメーターでスカラップの変更ができます。**

【ファイル】 - 【パラメーター】をクリックします。 【データ作成】 - 【37.柱、梁作成関連】 - 97) 溶接スカラップ の をクリックし、設定を開きます。

ファイル

工事管理

保存

**パラメーター**

データ再構築

レイヤー設定

図面作成

加工図作成

データ作成

二次部材作成

データ連動

用紙設定

工事別パラメーター

37.柱、梁作成関連

38.ブレース・方杖作成関連

39.柱仕口関連

41.母屋データ作成

42.胴縁データ作成関連

43.型紙作成関連

44.溶接・塗装関連

45.符号管理関連

項目名称	設定値
94 上コーナーR(mm)	10
95 下コーナーR(mm)	10
96 上コーナーR(mm)	10
<b>97 溶接スカラップ</b>	
98 現場溶接スカラップ	
99 突合せ溶接スカラップ	
100 ノンスカラップ切り落とし幅<mm>	0
101 ノンスカラップ切り落とし高さ<mm>	0
102 ノンスカラップダイヤ縁のすきま	2
103 スカラップ形状判定幅	100
104 スカラップ形状判定幅鋼材弱軸	0
105 スカラップ有無判定幅	35
106 柱ガセットスカラップ【ロール材】	

スカラップの項目を「5 - ノンスカラップ」にします。

溶接スカラップ

ウェブサイズ フランジサイズ

300 150

指定値以下 (WH ≤ 300 / FH ≤ 150)		指定値より大 (300 < WH / 150 < FH)	
スカラップ	5 - ノンスカラップ	スカラップ	5 - ノンスカラップ
スカラップ径1	10	スカラップ径1	10
スカラップ径2	35	スカラップ径2	35
メッキ塗装形状	3 - 円弧-円弧2	メッキ塗装形状	3 - 円弧-円弧2
スカラップ径1	10	スカラップ径1	10
スカラップ径2	35	スカラップ径2	35

直線-円弧時の角度 35

OK キャンセル

【OK】をクリックします。



判定値となるウェブサイズ・フランジサイズを設定することで梁サイズによりスカラップ種類を分けることができます。

溶接スカラップ

ウェブサイズ フランジサイズ

300 150

指定値以下 (WH ≤ 300 / FH ≤ 150)		指定値より大 (300 < WH / 150 < FH)	
スカラップ	4 - 円弧-円弧2	スカラップ	5 - ノンスカラップ
スカラップ径1	10	スカラップ径1	10

ウェブサイズ・フランジサイズの両方に設定値を指定させ、スカラップ形状がどちらにも該当する場合は『指定値より大』のスカラップ形状を優先します。ウェブのみ、またはフランジのみサイズを参照してスカラップ形状を決めたい時は、参照しない側のサイズへ「0」と入力します。



溶接スカラップをノンスカラップにした場合は、【パラメーター】 - 【データ作成】 - 【37.柱、梁作成関連】 - 100) ~102) で切り落としやすきまの設定をします。

100 ノンスカラップ切り落とし幅<mm>

101 ノンスカラップ切り落とし高さ<mm>

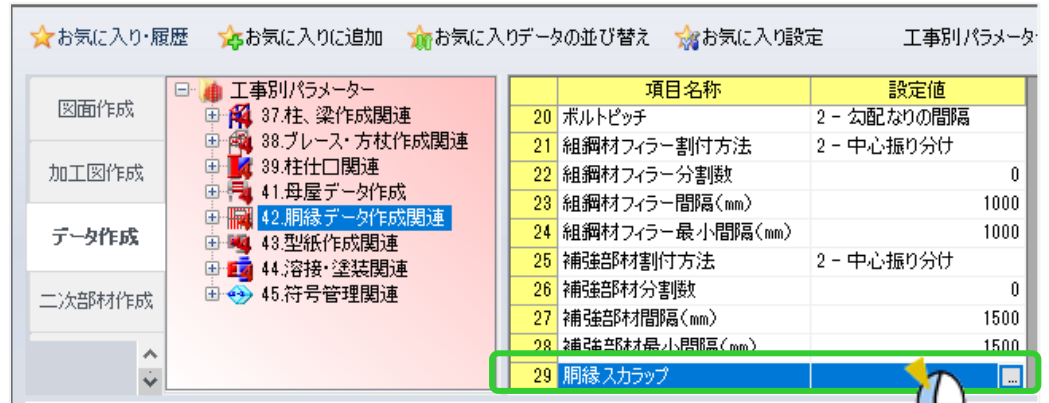
102 ノンスカラップダイヤ縁のすきま



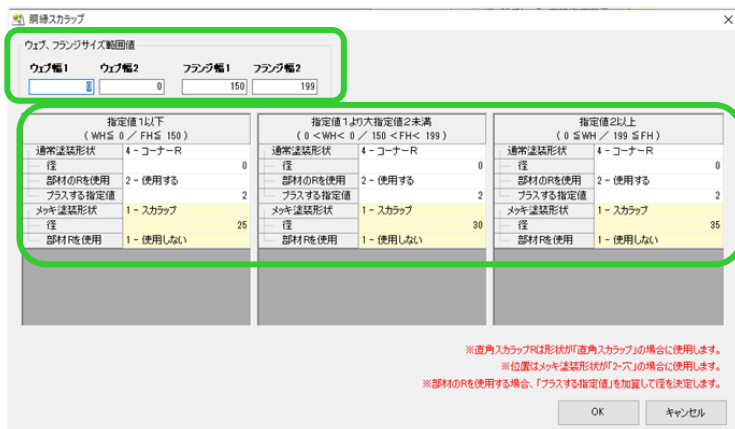
## 胴縁ピースのスカラップ形状を変更したい！

**パラメーター設定より変更可能です。**

【ファイル】 - 【パラメーター】をクリックします。

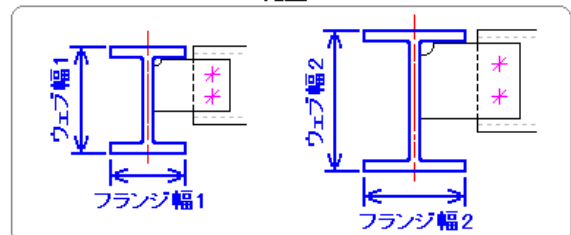


【データ作成】 - 【42. 胴縁データ作成関連】 - 29) 胴縁スカラップ の [...] をクリックし、胴縁スカラップの設定画面を表示します。

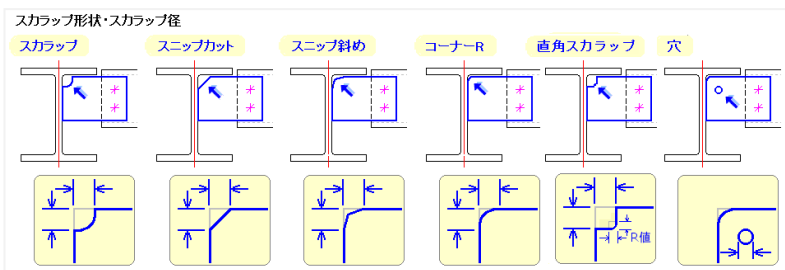


「ウェブ、フランジサイズ範囲値」にて、指定値 1 と 2 を設定します。

ウェブ・フランジサイズ範囲



※「指定値 1 以下」「指定値 1 より大、指定値 2 未満」「指定値 2 以上」の設定の内どの設定を見るかは、こちらの数値を元に決まります。



母屋・胴縁マスターの『接続(ウェブ)』が〈2 - ボルト接続〉の場合、『スカラップ径』で〈1 - パラメーター〉を選択いただいた場合、こちらの設定を参照致します。

接続(ウェブ)	2 - ボルト接続
ボルト合わせ位置	0
PL接続長	0
PL形状	7 - パターン7
PL斜めの立ち上がり	0
スカラップ種類	1 - パラメーター
スカラップ径	0

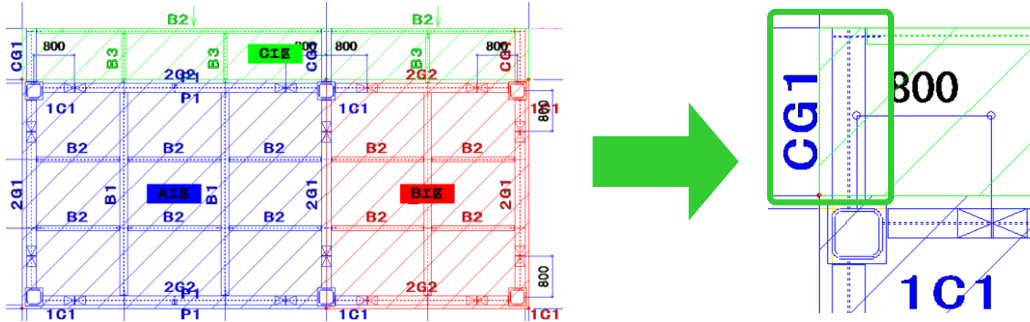


## 個別に工区を設定したい！

**個別指定を使用すると個別に工区設定が可能です。**

【工区】 - 【入力】で工区を設定した場合、範囲選択時に範囲内に含まれた製品が一括で工区設定されます。

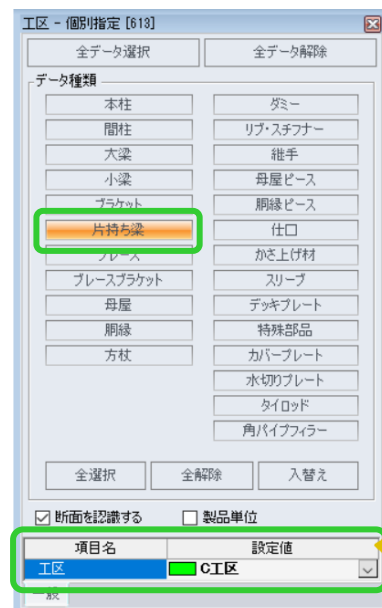
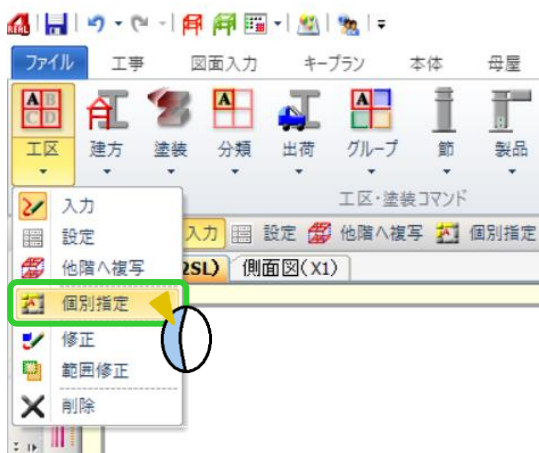
例) 柱がA工区の場合、C工区の範囲にあって柱に溶接する片持ち梁はA工区に含まれます



範囲選択ではなく個別に工区を設定したい場合や、製品の一部を【入力】で設定された工区とは別の工区に設定したい場合は、【個別指定】で個別に工区を設定します。

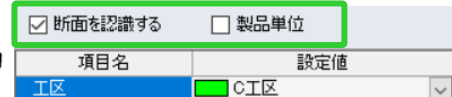
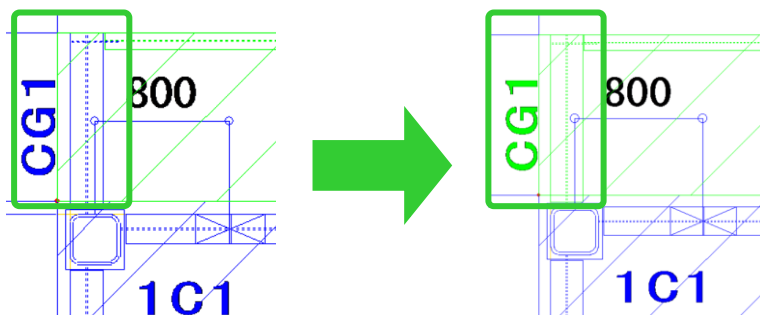
【工区】 - 【個別指定】をクリックし、入力シートで設定したい工区を選択します。

【データ種類】で選択している鋼材や部品のみ配置画面上で選択できるため、配置画面上で選択し辛い場合は、選択したい鋼材・部品のみ【データ種類】で選択してください。



配置画面上で個別に工区設定したい鋼材をクリックし、四隅の☒をクリックして設定します。

例) 片持ち梁 CG1 をクリックした場合、片持ち梁 CG1 がA工区からC工区に変更されます。



- 断面を認識する  
☑ を入れると、鋼材の断面も選択できます。
- 製品単位  
☑ を入れると、製品単位で選択します。  
今回のように鋼材や部品単位で選択したい場合は☑ をはずしてください。





## 図面に鋼材符号名や製品符号名を表示させたい！

**パラメーターで符号名の表示方法を設定できます。**

例) 梁伏図に大梁・小梁の鋼材符号を表示させる場合

【ファイル】 - 【パラメーター】をクリックします。

【図面作成】 - 【5.梁伏図】 - 35) 大梁符号、38) 小梁符号で変更をします。

図面作成	工事別パラメーター	項目名称	設定値
加工図作成	1.用紙	31 柱符号	#1
データ作成	2.マーク・寸法線	32 柱部材名の階符号補正	1 - しない
二次部材作成	3.通り	33 間柱符号	#1
データ連動	4.アンカープラン図	34 間柱符号表示	1 - 表示/柱
用紙設定	5.梁伏図	35 大梁符号	#1
	6.軸組図	36 大梁符号位置	2 - 中央
	7.継手基準図	37 プラケット符号	
	8.詳細図全般	38 小梁符号	#1
	9.柱詳細図	39 小梁符号位置	2 - 中央
	10.間柱詳細図	40 方杖符号	#1
	11.梁詳細図	41 方杖符号位置	1 - 端部
	12.ブレース詳細図	42 梁長さ表示	1 - なし
	13.部品図	43 梁長さ表示位置	1 - なし
	14.溶接基準図	44 型紙図番表示	1 - なし
	15.鉄骨詳細図	45 通しダイヤ簡易表示	2 - あり
	16.胴縁軸組図	46 継手表示	6 - 継手形状
	17.胴縁割付図		
	18.ピース配置図		

35) 大梁符号の設定画面を開いて鋼材符号名(#2)を選択し、OKをクリックして下さい。

同様に 38) 小梁符号も変更をします。

製品符号名にする場合は、製品符号名(#3)を選択し、OKをクリックして下さい。

符号名を表示させない場合は、クリアをクリックし、空欄にした状態でOKをクリックして下さい。

大梁符号設定

#1

\*漢字、アルファベットも入力可能です。

部材名(#1) 鋼材符号名(#2) 製品符号名(#3)

- ( ) < > クリア

OK キャンセル

【部材名(#1)表示】

大梁符号設定

#2

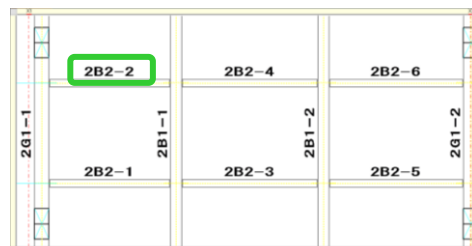
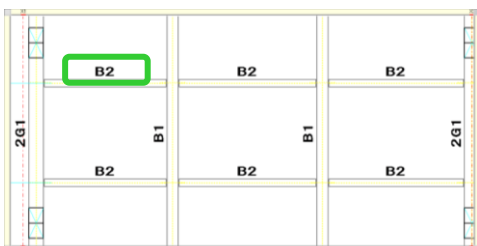
\*漢字、アルファベットも入力可能です。

部材名(#1) 鋼材符号名(#2) 製品符号名(#3)

- ( ) < > クリア

OK キャンセル

【鋼材符号名(#2)表示】



符号名の表示方法は、部位ごとに変更が可能です。

31) 柱符号、33) 間柱符号、54) ブレース符号、63) 母屋符号を変更してください。

胴縁割付図は、【図面作成】 - 【胴縁割付図】 - 22) 胴縁符号を変更してください。

また、アンカープラン図や軸組図、その他の各図面についても同様にパラメーターより符号名を変更できます。

符号管理を行っていない場合は、部材名が表示されます。